

JR 九州ホテルブラッサム那覇



はじめに

本施設は、那覇観光のメッカである国際通りそばにオープンした沖縄初のJR九州グループのホテルであり、沖縄特有の環境に適応させながら伝統的なモチーフ、色彩、素材を取り込み、沖縄らしさとともに新しい「和」を表現した施設である。またロビーや客室に行燈照明を設けたり、ホテル全体を行燈に見立てたりと「和」を感じさせるデザインで統一している。



エントランス



客室

建築計画・インテリア計画

沖縄特有な環境に適応させながら、伝統的なモチーフ、素材を取り込み、「光（ひかり）」「標（しるべ）」を主なキーワードとしている。

—「光」…南国の光を採り入れる大きな窓

客室は大きな窓を最大の特徴としている。沖縄特有の夏場の日射、台風等の過酷な環境下で大きな窓を実現するため、沖縄の民家に昔から見られる、日除け・雨除け機能を持つ“あまはじ”を現代的に解釈し、再構築した。客室外に配置した構造体である柱や梁が強い日差し、風雨を遮り、更にはルーバーとライトシェルフを組込むことで、熱負荷を抑制しながら南国の自然光を体感できる機能的な構造と外装になっている。

—「標」…那覇中心地に花開いた新たなシンボル

外壁から大きく張出した花弁のような屋上の庇は外観デザインの要であると共に、日除け機能の役割も果たしている。夜には庇がライトアップされ、客室やロビー、レストランの明かりが灯り、ホテル全体が行燈のように街や通りを照らし、周囲から際立った姿是那覇中心地の新たなシンボルとして注目を集めている。

—「沖縄の空気をつくる」をテーマとした内装計画

インテリアは、「沖縄の空気をつくる」をコンセプトに、沖縄の自然・伝統を素材や色彩で表現している。屋外の水盤と緑へと繋がるオアシス感を演出した開放的なロビーの天井高は6mあり、この高い空間を活かしたレセプションの光壁には九州の原材料を使用した和紙を用いて沖縄の青い海から水平線までを表現した。また壁面の格子や行燈はミンサー織、博多織等の伝統的な和柄をテーマとし、沖縄と九州の「和」を表現している。

一面に広がる窓による開放感に満ちた客室は、ブルーグリーンを基調とした壁の色彩で空と海を表現し、格子や行燈を用いて和のイメージと融合させている。また、床は素足で快適に過ごせるようにフローリング仕上げとし、リラックスしてリゾート感を満喫できる試みを行っている。

13階には宿泊者専用のライブラリーラウンジとリラクゼーションサロンを備えており、窓の外には那覇の市街地から海までを一望できるテラスを併設し、当ホテルでしか味わえない隠れた穴場となっている。

グレア・輝度（有害なグレア、高輝度光源の障害）

グレアレスタイプのダウンライトや間接照明を使用し、グレアを抑えている。天井高3m以下の空間は主に埋込穴径φ55mmの非常に小さなダウンライトを使用し、天井面のノイズを無くしつつ必要な明るさを確保している。



コンセプト、波及効果

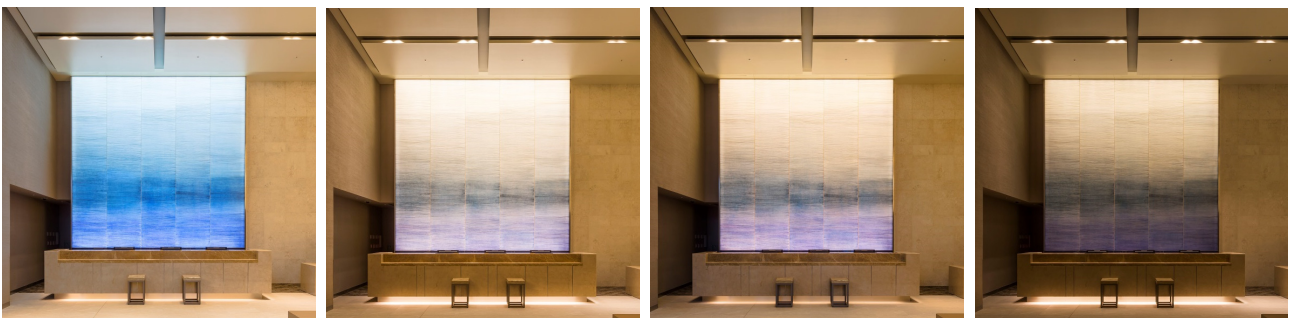
本施設は、沖縄の素材や色彩、パターンを随所にちりばめ「沖縄らしさ」を表現しており、それらを効果的にみせるため光の明るさや光色を変化させたりグレアレス性能の高い器具を使用して、開放感のあるくつろぎ空間を演出している。また地域性をあらわす素材を使用した光壁や行燈照明などにより建築・内装と融合した「和」を表現しており、これからのホテルの在り方として波及効果が高いと思われる。

光源・器具（光色の適否、設置場所）・保守点検

すべて色温度3000Kに統一し、落ち着いたくつろぎ空間を演出している。ロビーには和紙を用いた□1686mm×高3200mmの大きな特注の行燈照明を天井から吊り下げ、パネル透過率や光源の配置により和紙の模様を美しく、均一に見えるよう工夫している。

すべて長寿命のLED照明を使用している。またロビーの光壁は上下に器具を設置しているが、上部のダウンライトは上部に点検口を設けて上に引き上げる構造にしており、下部は照明ボックスを横から引き出してメンテナンスできるように設計している。

ロビーのレセプションにある光壁は九州の和紙を用いて沖縄の青い海から水平線までを表現している。その中に2700K～5000Kまで調光調色可能な器具を上下に設置し、時間帯に応じて明るさと色温度を変化させることで、まるで自然光によって変化して見える海のような景色を演出している。



シーン1：日中
色温度：上下共に 5000K

シーン2：夕方
色温度：上下共に 4000K

シーン3：夜間
色温度：上下共に 3000K

シーン4：深夜
色温度：上 2700K、下 消灯

雰囲気（周囲との調和）・照明効果

ロビーや客室の壁面の格子や行燈は、ミンサー織、博多織などの伝統的な和柄をデザインテーマとし、沖縄と九州の「和」を表現している。また夜間には漏れ光によってホテル全体が大きな行燈照明になり、街や通りを暖かく照らしている。

外観デザインの要である屋上の庇は足元に設置したライン照明（配光：中角）でライトアップしている。シミュレーションにてライン照明の配光・照射角度を検討し、決定した。ホテルのサインを取付けるためのルーバー部分による影が出来るのを避けるため、ルーバーの上部に広配光のライン照明を設置し、調光することによって周囲の明るさと揃え、ムラなく均一に照らし上げている。

